

お客様のケーススタディ



eヘルスをリードするフランス領ギアナの救急医療サービス

課題

ギアナのSAMU1は日々、非常に困難な状況に直面しており、その複雑さは増すばかりです。介入ゾーンは広大で、かなりの移動が必要です。さらに複雑なことに、この地域では11の言語が話されており、意思疎通が困難です。こうした状況は、救急隊が迅速かつ的確な対応を行うことを困難にしています。

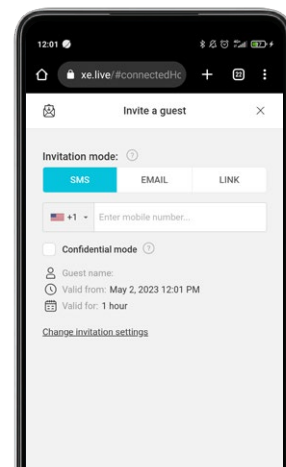
- 平均2.5時間のヘリコプター応答時間による広大な介入ゾーン
- 新生児医療における大西洋横断医療搬送には最長12時間のフライトが必要
- この地域で話されている11の言語によるコミュニケーションの難しさ

このような課題に対処するため、SAMUは日常活動における視覚的調整を容易にするXpertEyeを採用しました。この斬新な方法により、SAMUは安全なビデオ通信を使用して、状況を効果的に評価し、適切な対応を提案することができます。

ユースケース | Visio-規制

救急医療ディスパッチャーは、救急の状況を正確に把握する必要があります。電話の発信者に質問するだけでは、何が起きているのかを予測することは困難です。XpertEyeを使えば、救急隊員はSMSまたはEメールで安全なリンクを発信者に送ることができます。ワンクリックで、発信者は招待を受け入れることができ、ディスパッチャーはスマートフォンのカメラを通して何が起きているかを見ることができます。

米国の研究 (Langabeer博士、Gonzalez博士、Alqusairi博士、Champagne-Langabeer博士、Jackson博士、Mikhail博士、Persse博士) によると、規制段階でビデオを使用した場合、2件に1件は医療搬送の要請がキャンセルされるということです。





「XpertEyeを選んだ理由は、当社のレギュレーションツールとの互換性と、非常にシンプルな導入プロセスです。XpertEyeは特別な技術環境を必要としません。セキュアリンクを使えば、クリックするだけで規制当局とビデオ通信ができます。」



ジャン・マルク・プジョ-SAMU973救急サービス部長



使用例 | 遠隔専門技術

フランス領ギアナのSMUR2では、スマートグラスのXpertEyeを、例えば早産時や、繊細な介入を行う際の遠隔サポートに使用しています。XpertEyeを使用することで、ディスパッチャーは離れた場所から医療介入を確認ことができ、救急医は両手を自由に使えるため、特に重要な緊急事態において貴重な時間を無駄にすることがありません。



成果

- ・迅速かつ安全な情報伝達
- ・合理化された介入とより良い意思決定
- ・デリケートな手続きの効率化
- ・出張の削減



「SAMU 973とAMAの協力により、フランス領ギアナは、どこからでもアクセス可能な遠隔専門家ネットワークを構築することで、救急医療ネットワークを大幅に強化することができました。」

ジャン・マルク・プジョ

¹ 救急医療サービス

² 移動式救急・集中治療室